

圓久寺の俊栄だより

平成 29 年 1 月

無事に新しき年を迎えられました。

本年も皆様の健康無事をお祈りしながら明るく元気に参りたいと思います。

本年もよろしくお願いいたします。

去年の出来事すべて「これでよし！」

無事に過ごせただけで「ありがたい！」

家族、友人がいてくれるだけで「しあわせ！」

望むことが叶わなくても「まあいいか」とさらっとあきらめる。

人から奪わない、与える、譲る人になる。

お陰様の気持ちをいつも忘れずに「ありがとうございます」

誰にでも優しく親切な人になる。困ったときは「お互い様」

威張らない、うぬぼれない、いじめない、自慢しない。

他人と比べて、恨まない、ねたまない、ひがまない。

自分はまだまだ未熟だな、と思う。人に完璧を求めない。

自分がされて嫌なことは他人にしない。

人の話をきちんと聞く。(でも、とか、どうせ、と言って相手に嫌な思いをさせない)

笑顔で、さわやかに挨拶をできる人になる。

なんぼ年を取っても素直に明るく、親切に。若い人に好かれる年寄りになる。

自分の最期に、家族友人から「ありがとう」と言われる生き方をする。

これらの標語は、青少年、子どもの為だけではなく「我々大人」の為の標語であります。他人事ではありません。若いときは、ころもゴムボールのように弾力性があり、へこんでいてもすぐに元に戻ります。しかし、年を取るほど弾力性が低下し、空気も抜けていき固いゴムになります。(頑固、強情、偏屈)

円熟味を増すどころか、カチカチ、ベコベコになってしまったところに空気を入れてあげなくてはなりません。それはすべて自分の努力。素直になって自分の生き方を見つめなおすことがスタートですね。

以前、ご主人を亡くした奥様から、「元気なときはありがとうなんて一度も言われたことがなかったです。喜びも張り合いもない夫婦生活でしたけど、晩年、病気になってベッドの生活になったとき、初めていつもありがとう、と言ってくれました。その言葉で今までのつらい人生がやっと報われました」とお話を聞きました。

美談でありますけれど、どうしてもっと早く元気な時に「いつもありがとう」の思いを伝えてあげられなかったのかと思いました。

その2

きっと、ご主人は最後病を頂くことで、「ありがとう」を言える人になれたのかなあと思っています。

「大切なこと」に気が付けたとき、自分は変われます。そのきっかけは大失敗だったり、挫折だったり、病気だったりするのでしょうか。早くに、元気な時に「大切なこと」に気が付けてほうがいい、言葉で伝えられる今こそです。

最期、自分が、自分の生きてきた人生に後悔しないかどうか。

「最期」を「今」に置き換えても良いと思います。私たちは「完璧」ではありませんから、間違いをします。その間違いから反省し、学んで成長します。だからこそ、後悔しないよう素直に、謙虚にあるべきだと思います。

へこんだゴムボールに入れる空気は「感謝」です。自分という命は、お母さんが命を懸けて産んでくれました。お父さんが汗いっぱい流し働いて養ってくれました。両親の最大の愛があなたの命なんです。自分がどれほど成功しても、何歳になっても、永遠に自分の命は両親の愛。せっかく頂いた命を光り輝かせることが自分の使命ではないですか？

「自分の命」から、両親、そして両親、祖父母、と辿って行きます。

20代前までたどると 104万8567人

30代前まで（平安時代の末期）たどると 10億7374万1824人 になるそうです！

これだけの方たちの命のリレーを頂いて今の「自分の命」があるということ、奇跡だと思いませんか？40代、50代、60代前、想像するだけで頭がクラクラしてしまうほどです。この奇跡からすればジャンボ宝くじの当選確率なぞ「屁のカップ」ですね。

「なんて自分はありがたいんだ！」と思えることがゴムボールの空気。

生かされている自分の命って素晴らしい！

さあ、やわらかいゴムボールになって明るい、和やかな1年にしましょう！！

●俊栄の近況報告。

伊豆七島の中にある新島（にいじま）のお寺とご縁がつながりました。昨年6月のお便りでは少しふれましたけれど、石材店の社長さんと式根島へ釣りに行って大いに盛り上がりましたがそのご縁から新島のお寺をお手伝いさせていただくことになりました。

2月節分（2月3日前後1週間位） 3月お彼岸期、9月お彼岸期1週間位、8月お盆期1週間位、4月、5月、6月、7月は4、5日位、こちらを留守にさせていただきます。

毎年恒例のお盆法要は、8月5日（土）を予定しております。（6月のおたよりで詳細をお伝えします）

年回のご供養、お参りを検討されている方は、早めに日程の打診をして頂ければありがたいです。

ご縁（チャンス）は思いがけないところからやって来る、のですね。出会いを大切にしていきましょう！

吉田俊栄の独り言 平成 29 年 1 月

1 月〇日（冬晴れ） 21 世紀は義理と人情！

去年は暗く、不安になるニュースばかりでしたが、きらりと光る爽やかな物語もありました。広島カープの黒田選手の見事な引き際は。メジャーリーグでも活躍し、年棒 20 億のオファーがあったそうですが、彼が選択したのは古巣のカープへの復帰でした。

アメリカに渡るとき、気持ち良く送り出してくれたファン、球団に最期恩返しをしたいと決意して飛行機に乗ったそうです。そして自分との約束を守り通したわけです。

普通は、待遇、条件がより良いところへいくのが「当たり前」の時代ですけれど、黒田選手はまさに「真逆」の道を選んだことがスゴイですね。

損とか得とか一切無し。彼が得たものはお金では手に入れることのできない、お金以上に価値のあるものだった。

私たちにも、お金の換算できない大切なものがあるはず。物と情報にあふれている激流のような生活の中にいるといつの間にか見失ってしまう大切なもの。

黒田選手が気づかせてくれた「お陰様、お互い様を忘れない生き方」イコール私たちの生き方です。大切にしたいなあと思います。

12 月〇日（決戦前夜） サンタさんは偉大なり！

長男ヒロアキは高校受験生、やはり中三になるとかなり手ごわくなるわけで、勉強に明け暮れながらもクリスマスに向けて着々と根回しを始めました。彼は陸上を高校でも続けたいという気持ちがあるようです。「お父さん、受験と卒業まではさ、自主トレしなくちゃいけないから冬用のジャケットがいるんだよね。」父「ふーん、それで？」「クリスマスもうすぐじゃん、だからさあ〜」父「君は小学生のときからサンタさんなんかいないって言ってたよなあ。だからクリスマスはないんじゃないの？」とイジル父。「俺、わかったんだ。サンタさんはお父さんだっていうこと。」眼をきらきらさせながら全身全霊で訴えている息子。

（父の心の中）「そおら、やっとわかったか、お父さんの偉大さをな」

「前向きに考えておくれよ」とクールに返事しながらも優越感にひたる単純な父でありました。

そのやり取りを盗み見していた家内は「まったく、どっちが子どもなんだかわからないわね〜」と首を横に振っておりました。

△月◇日（曇天） これって老化現象？

時々、健康診断で身長を計りますけど、年々背が縮んでいきます。整骨院の先生にその訳を聞いてみますと、「少しずつですけど椎間板が減っていくんですよ。じわーじわーっとね。」「それって老化現象ですかね？」「ううむ、そうとも言えるかもしれませんね。」先生は優しい方なのでズバツとは言わない。

まあ、おじさんになっても背が伸び続けるのはかなり不自然だし、髪の毛が薄くなっていくようなものかなと思えばあきらめがつくし。ほとんどの同世代の人は「老眼」ですからね。

しかし、老化、という表現はどうも癪に障るなあ。もうちょっと明るくなる言葉はないものか。「後期高齢者」はひどいですね。80 歳越した方は自虐的に「どうせ私は後期ですから」と言ってますね。体は衰えていくとしても、沢山のことを学んでいき、こころは豊かになっていくのですから「ミドル成長期」「プラチナ成熟期」「シルバー円熟期」「ゴールド成仏期」などはいかがでしょうか。「俺はもうすぐ成仏するんだなあ、楽しみだ。」と言えるような、やる気が出るような感じがしません？